

抄録タイトル:

「アトピー性皮膚炎治療 最新の Topics ～ターゲットは EASI クリアへ～」

抄録本文:

アトピー性皮膚炎の治療は 2018 年に生物学的製剤の登場に伴い大きく前進した。皮膚科領域で生物学的製剤が貢献している代表的な疾患としては乾癬が挙げられるが、薬剤の登場に伴い目指すゴールが変化し、今は PASI90、PASI クリアが現実的な目標となってきている。一方アトピー性皮膚炎では、EASI が疾患活動性の評価指標として浸透してきた段階ではないだろうか。一般には、EASI75 達成を薬剤の評価指標と考えることが多いと思われるが、アトピー性皮膚炎患者は“より早く”かゆみから解放され、“よりきれいな”肌を手に入れることを望んでおり、我々はその声に耳を傾け、最新の治療を提供する必要がある。乾癬の歴史を振り返ると、アトピー性皮膚炎でも近い将来より高いレベルを求め、薬剤選択をする時代が訪れると想像される。本セミナーではこのような環境下で新たに登場した、JAK 阻害薬ウパダシチニブ（経口剤）の有用性及びその実臨床での使い方、そして期待について触れたい。